



押し花の素晴らしさを伝える 押し花インストラクター

木元 泰子さん (中央・58歳)

今月は、色とりどりの花を使って目を眩(くら)まほりの美しい作品を制作している、押し花インストラクターの木元泰子さんを紹介します。

押し花を始めたのは8年前。学生の頃から生け花を学び、花が身近な存在だった木元さんは、花を美しい状態のまま残すことができる押し花に魅力を感じました。「いつか嫁ぐ娘には押し花で作ったウエルカムボードを贈りたい」と思ったことが、押し花を本格的に学ぶきっかけとなりました。



木元さんが押し花で表現するのは、風景や静物を描いた絵画やアークセサリーの装飾など実にさまざま。素材は花だけでなく、草、木の枝、コケなど多種に及び、台紙となる背景には和紙や布、リボンなども用います。「昔は庭に雑草が生えると、草取りが面倒だと感じていましたが、押し花を始めてからは、この植物がどのような花を咲かせてくれるのかなと想像を巡らせるようになりまし。今では日常生活の中で押し花の

素材を探す楽しみが増えましたね」とお気に入り植物や材料に出会う喜びを語ります。

押し花の技術を習得していく中で、娘たちの前で頑張っている母の姿を見たいという思いから、一年にも及び準備期間を経て平成23年11月に押し花インストラクターの資格を取得。そして4年前には、元々店舗だった自宅の1階部分を改装し、念願だったギャラリー兼カフェをオープンしました。現在、自宅で押し花教室も開いています。実際の指導では、生徒それぞれの個性を尊重しながらアドバイスをするよう心掛けています。

掛けているそうです。試行錯誤を繰り返しながらも、上手にできた時の喜んでる様子を見るのが、何よりの楽しみになっているとのこと。

「数々の作品を並べたこの場所で、みんなと楽しい時間を共有したい。一生続けられる趣味に出会えて、長年の夢が叶いました。私のやりたいことを理解し、賛同してくれている家族には感謝の気持ちでいっぱいです」と顔をほころばせる木元さん。多くの人に押し花の素晴らしさを伝えていく木元さんの日々はこれからも続きます。

私の作品

◎皆さんの作品を募集しています。
◎俳句は毎月5日までに、はがき・封書で
広報広聴課へご応募ください。

- | | | | |
|----------------|------------|------------------|------------------|
| 俳句 | 荒木 小林 康男 | 贈答の包装紙にも春の色 | 前谷 町田 貞子 |
| 廃校と決まる母校や花の冷え | 桜町 長谷川さく | 採れたての竹の子を煮ておもてなし | 藤間 大上美知子 |
| 生かされて一人残され庭牡丹 | 荒木 藤田 明枝 | 花吹雪言葉忘れてしまひさう | 天満 青柳 欣吾 |
| 草よりも草の色して蜥蜴かな | 城西 鈴木 正夫 | 五月晴れ暫し煩惱忘れたり | 谷郷 吉野 六郎 |
| 一年生やんちゃ坊主の澄し顔 | 矢場 高田みつ子 | 花吹雪水面に映える万華鏡 | 城西 佐藤ヤスコ |
| 春色の溢るハチ公スクランブル | 須加 須加かつ江 | 木々の間の空の淡さや新樹光 | 持田 丸山 麟一 |
| 散りてなほ水面に遊ぶ花筏 | 富士見町 鈴木スイ子 | 春の雨濡れて浮き立つ句碑の文字 | 持田 伊藤 洋子 |
| 筍を手秤で買ふ産着地 | 荒木 手島 一海 | 何事もなき一日や花曇り | 持田 二瓶 弘子 |
| 初端午病に克ちし一才児 | 南河原 今村 文女 | 揺れる春天災防く術はなし | 母の待つ墓に真赤なカーネーション |
| 揺れる春の災防く術はなし | 棚田町 春田 枕流 | 病窓の遙か筑波は霞みをり | 新じゃがのテレビで習う調理法 |
| | | | (三沢 一水 監修) |

平成27年8月生まれのお子さんを募集します

○6月1日(水)～30日(木)に電話またはEメールで広報広聴課広報広聴担当(内線318)
※応募要領は市ホームページをご覧ください。
○応募者多数の場合は、7月4日(月)午前11時から市役所203会議室で公開抽選を行います。



★★★ 平成27年6月生まれのおともだち ★★★



栗田 姫愛ちゃん(佐間)
平成27年6月9日生まれ
父・恵一さん 母・千乃さん
「我が家の姫♡
でもいたずらっ子!」



野崎 偉央ちゃん(長野)
平成27年6月3日生まれ
父・匡史さん 母・智己さん
「元気ですくすく育ってね!」



工藤 妙笑ちゃん(持田)
平成27年6月23日生まれ
父・圭敏さん 母・有沙さん
「素敵な笑顔をいつまでも!」



萩原 千那ちゃん・千唯ちゃん(小針)
平成27年6月26日生まれ
父・陽太さん 母・祐子さん
「幸せ二倍、ありがとう!」



野口 菜波ちゃん(城西)
平成27年6月16日生まれ
父・英孝さん 母・里菜さん
「元氣いっぱい成長してね!」



染野 なみちゃん(佐間)
平成27年6月27日生まれ
父・翔さん 母・絵美さん
「笑顔で元気に育ってね!」

ぎょうだの会社を クローズアップ!!

株式会社 大堰

一足一足手作業でこだわりの靴づくり



会社プロフィール

代表取締役 宮内 和広
【事業内容】高級革靴製造
【住所】須加382

今月は伝統的製法を守りながら、履きやすい靴づくりを追求している株式会社大堰を紹介いたします。

同社は昭和48年にスリッパ製造や製造中の基準に合わない革靴を修理する会社として創業しました。その後大手靴メーカーの生産を受注したことから、本格的に革靴の製造を開始。やがて革靴の製造で一目置かれる存在となった同社は、スポーツシューズメーカー、株式会社アシックスからの誘いを受け、革靴とスポーツシューズの特性を兼ねそろえたウオーキングシューズの開発・製造に着手しました。従来、革底やウレタン底が主流であった時代に、スポーツシューズに使われている発砲スポンジの靴底に変えることで、それまでの革靴に無かった軽量性やクッション性、フィット性などを実現させました。革の高級感や保型の良さを生かしながら、機能性に優れた新たな靴を作り出したのです。現在は、アシックスウオーキングシューズの専属工場として年間約22万足を製造しています。

代表取締役の宮内和広さんは「私たちは品質を第一に、お客さまの顔を思い浮かべながら一足一足丁寧に靴を作っています。業界では珍しく、メンズやレディース、ビジネスなど幅広い種類を取り扱っているのも特徴です」と話してくれました。数多くの工程で製造される革靴は、経験を積んだ社員が素材の状態や出来栄を確認しながら全て手作業で行っています。また、出荷までに製品をダブルチェックするなど品質管理を徹底。さらに、最近は一人の社員が複数の工程の技術を身に付ける「多能工」化を積極的に進め、作業の効率化も図っています。

今後について宮内さんは「近年は海外から安価な革靴が輸入されていますが、私たちは値段ではなく品質で勝負していきたいと思っています。素材選びから靴の仕上げ作業まで国産の高品質な靴を届けていきたいです」と力強く語ってくれました。靴づくりへの思いを詰め込んだ同社の靴は、これからも私たちの足を守り続けてくれるでしょう。

※このコーナーで紹介する会社を募集しています。
特色ある業務を行っている会社の情報を広報広聴課広報広聴担当(内線318)までお寄せください。